

学習指導要領対応と、新しい学力評価方式で、
さらにパワーアップ↑

令和
8年度

標準学力調査



顧問	荒井 克弘	東北大学 名誉教授 大学入試センター 名誉教授
調査分析設計協力	荘島 宏二郎	大学入試センター 教授
調査編集協力		
国語	樺山 敏郎	大妻女子大学 教授
社会	中田 正弘	白百合女子大学 教授
算数・数学	清水 宏幸	山梨大学大学院 教授
理科	田代 直幸	常葉大学 教授
英語	山田 誠志	至学館大学 教授

目次

- 標準学力調査の特長 p.2
- 目標標準方式と結果資料 p.8
- 段階評価方式と結果資料 p.12
- 個人票 p.16
- 英語特集 p.18
- 質問紙調査 (i-checkなど) p.22
- マイアセス p.26

調査問題と評価方式の種類

標準学力調査は、経年比較を重視した「部分改訂版」と、毎年問題が変わる「全面改訂版」の2種類の調査問題を発行しています。

また、小問ごとに設定した出題のねらいや目標値（期待正答率）に達しているかどうかを確認する、「目標準拠評価方式」という方式に加え、「段階評価方式」という新たな方式が加わり、2種類の評価方式から結果帳票を選べるようになりました。

2種類の調査問題から選べる!

全面改訂版	問題の改訂率	部分改訂版
100%		一部改訂
調査問題を毎年全面改訂します。	実際の問題は P.4 へ!	調査問題を必要に応じて改訂します。
標準スコアで比較	経年比較	同一問題を正答率で比較
標準スコアを基準とした、経年比較資料（教育委員会・学校用）を提供します。		標準スコアを基準とした資料のほかに、前年度と同一問題での正答率を基準とした経年比較資料（教育委員会・学校用）を提供します。誤差のない厳密な経年比較が可能です。
全国値決定後	結果資料の返却	採点終了後
1 学期版：6 月初旬以降順次返却 3 学期版：1 月中旬以降順次返却		1 学期版：5 月中旬以降順次返却 3 学期版：1 月初旬以降順次返却
回収しない	問題用紙の回収	回収する
問題用紙は回収いたしません。つまずいた問題の振り返りに使用できます。 ※1 学期版小学校 2 年生と 3 学期版小学校 1 年生は除く。 ※調査の公平性を保つため、児童生徒への問題冊子の返却は、調査時期に関わらず、1 学期版は 6 月末まで、3 学期版は 3 月 10 日までお待ちください。それまでは、校内での使用・保管をお願いいたします。		調査の性格上、問題用紙は結果資料到着後にすべて回収します。

結果資料がデータで確認でき、実際の児童生徒の解答と問題が確認できる
マイアセスもご紹介します。詳しくは P.26 へ!

2種類の評価方式から選べる!

目標標準評価方式

評価は、「目標値」を基準として行います。目標値は、解答形式や出題形式をもとに初期設定し、プレテストの結果を加味して調査編集協力委員と協議のうえ、統計処理して決定します。

詳しくは [P.8](#) へ→

段階評価方式

評価は、「ステップ」と呼ばれる、学力を5段階に順序づけて分類する段階評価を基準として行います。「ステップ」は、「潜在ランク理論 (LRT: Latent Rank Theory)」を用いて結果を分析し、調査分析設計協力委員と協議のうえ、検証を重ねて決定します。

詳しくは [P.12](#) へ→

目標値を基準に、小学校3段階、中学校5段階で設定

総合評定

4カテゴリーのステップを5段階で表し、その結果から総合ステップを5段階で設定

目標値を表示

小問の レベル表示

5段階の難易度を表示

小学校3段階、中学校5段階の総合評定の人数割合を表示

学力階層の 割合

5段階の総合ステップの人数割合を表示

平均正答率を表示

小問正答率

平均正答率に加え、ステップ別の正答率を表示

目標値-5ポイントを基準に、その値以上の人数割合を達成率として設定

達成率

ステップ3～5までの人数割合を達成率として設定

目標値と正答率を比較して表示

個人票

4カテゴリーのステップと総合ステップを表示

個人票について、詳しくは [P.16](#) へ!

学習指導要領に対応

学習指導要領の改訂のポイントを踏まえ、評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」を適切に測る問題設計です。

多様な表現力を測る

豊富な記述式問題で子供たちの多様な考え方を評価します。

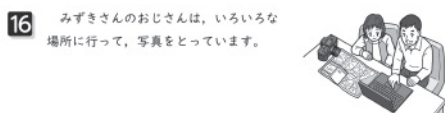
課題解決学習を意識

日常生活や普段の授業等の場面を設定し、
見方・考え方を働かせて取り組む課題解決の流れに沿った問題を出題します。

小学校 算数

日常生活で出て来た疑問を、算数で学習したことを使って
解決するような場면을積極的に取り上げています。

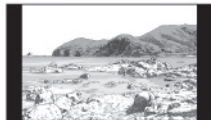
日常生活で使われて
いる算数について、
基本的な知識・技能
の定着を測ることが
出来る問題です。



- (1) みずきさんは、おじさんが写真をとりに行った場所の地図を見えています。
この地図は、実際の長さ100mを、1cmで表しています。
この地図の縮尺は、何分の1ですか。

みずきさんは、おじさんが
とった写真をパソコンで
見えています。

パソコンの画面



パソコンで写真を表示すると、左右に黒い
スペースができてしまうね。



写真とパソコンの画面では、縦の長さ^{たて}と横の
長さの比^{くら}がちがうからね。

- (2) みずきさんのパソコンの画面の縦の長さは144mm、横の長さは
256mmです。みずきさんのパソコンの画面の、縦の長さ^{たて}と横の
長さの比^{くら}を、簡単な整数の比で表しましょう。

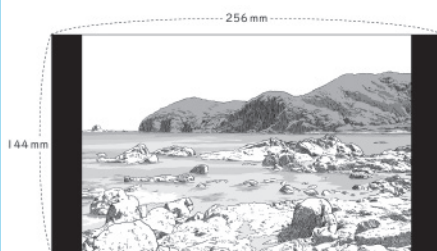
17

3学期算数 小学校算数6年



私のパソコンの画面に表示した写真は、
どのくらいの大きさかな。

- (3) みずきさんのパソコンの縦の画面いっぱいに写真を表示したところ、
次の図のようになりました。



写真の縦の長さ^{たて}と横の長さ^{よこ}の比は、2:3です。みずきさんの
パソコンに表示された写真の縦の長さ^{たて}は144mmです。横の長さ^{よこ}は
何mmですか。また、その求め方を、言葉や数、式を使って
説明しましょう。

答えは解答用紙に書きましょう。

対話の中から出て来た
疑問の解決方法について
記述する問題です。

見やすく読み間違えにくい、ユニバーサルデザインフォントを取り入れています。

小学校 理科

[illegible]

自然の事物・現象に身につけた知識を適用し、思考・表現する問題です。

小学校 社会

統計資料を読み取り、正確に説明するという授業での班別活動の場面を想定した問題です。

6

あなさんたちは、日本の食料生産について調べました。次の問題に答えましょう。

(1) あなさんたちはそれぞれ、日本の主な農産物の生産地について説明しています。

1



あやな

レタスは、それぞれの産地の特色を生かしてつくられています。夏はずいぶん長野県などで、春と秋は大消費地に近い茨城県などで多く生産されています。

2



ひろと

みかんは気候のえいきょうを受けやすい農産物です。主な産地は和歌山県、愛媛県、静岡県などで、あたたかい気候の地方にあります。

3



まひろ

牛肉の飼育には、えさになる牧草をつくる広い土地が必要です。牛肉の生産は、北海道や鹿児島などでさかんです。

4



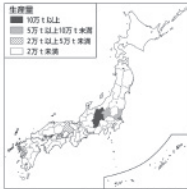
けんじ

米は日本でつくられています。特に新潟県や北海道、秋田県や山形県などで生産がさかんです。

右の資料は、ある農産物の生産量が多い県を表したものです。この資料を使って説明している人を、上の1～4から1人選んで、その番号を書きましょう。

生産量

107万t以上
57万t以上107万t未満
27万t以上57万t未満
27万t未満



(2014年) (データがある県数 2016年値)

日本の食料生産の特色に関する知識と、日本地図をもとにした資料を読み取る技能を測る問題です。

小学校
国語

学習指導要領における「情報の扱い方に関する事項」に対応します。
複数の資料を関連づけて整理し、伝えたいことを明確に記述する力を測ることができます。

目的や意図に応じて、書き表し方を工夫出来ているかを問う問題です。

① 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

② 前田さんは「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

③ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

④ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑤ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑥ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑦ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑧ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑨ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑩ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑪ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑫ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑬ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑭ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑮ 前田さんは「本の一部」をもとに、「ポスターの下書き」の〇〇気をつけてほしいことを書くときに、どのような工夫をしていますか。最も適切なものを、次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

3 学期末試験 小学国語 6年

答えは解答用紙に書きましょう。

9

調査問題の特長

中学校英語はP.19へ!

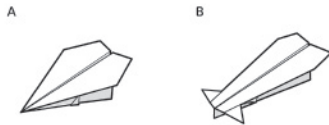
中学校 数学

中学校では、文化祭で「クラス対抗紙飛行機大会」が行われます。この大会は、次のようなルールで行われます。

クラス対抗紙飛行機大会のルール

- ・紙飛行機の材料はA4サイズの紙を使用すること。
- ・紙飛行機には、使用する紙以外のおもり等はつけないこと。
- ・紙飛行機は体育館のステージから飛ばすこととし、飛ばす際には、ゴム等は使用しないこと。
- ・各クラス1回だけ紙飛行機を飛ばし、その記録をそのクラスの記録とする。
- ・もっとも長い記録を出したクラスを優勝とする。

智樹さんと真由さんのクラスでは、どのような折り方の紙飛行機を使用するかを話し合いました。話し合いの結果、Aの折り方の紙飛行機とBの折り方の紙飛行機を、実際に何度か飛ばして、どちらの折り方の紙飛行機を使用するか決めることにしました。



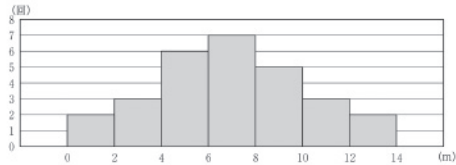
AとBでは、どちらの折り方のほうが、より長い記録を出せそうかな。



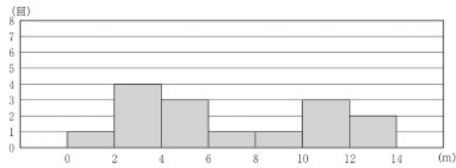
真由

次の二つのヒストグラムは、AとBの紙飛行機をそれぞれ何回か飛ばしたときの、飛んだ記録をまとめたものです。例えば、Aの紙飛行機のヒストグラムから、Aの紙飛行機の2m以上4m未満の記録が5回あったことがわかります。

Aの紙飛行機の記録



Bの紙飛行機の記録



このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 智樹さんと真由さんは、上の二つのヒストグラムについて話し合っています。

智樹さん「大会では、A、Bのどちらの折り方の紙飛行機を選ばいいのかな。」
真由さん「AとBの紙飛行機のヒストグラムは、全体の度数が違っても、度数をそのまま比較していいのかな。」

AとBの紙飛行機のヒストグラムを比較して、そこからわかる特徴をもとに、クラスの紙飛行機の折り方を選ぶとすると、あなたならAとBのどちらの折り方を選びますか。A、Bのどちらか一方の折り方を選びなさい。また、その折り方を選んだ理由を、AとBの紙飛行機のヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらの折り方を選んで説明してもかまいません。

統計の問題では、単に知識・技能を問う問題だけではなく、生徒がデータの傾向を総合的に考察し、判断する問題も出題しています。

与えられた情報を適切に読み取り、生徒自らが判断した理由を数学的に表現する力を測る問題です。

中学校 理科

- 13 真理子さんは、ある日、窓ガラスの表面に小さな水滴がたくさんついていることに気がつきました。真理子さんは、窓ガラスに水滴が結露するしくみについて考え、あのような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。



【課題】

どのようなときに、窓ガラスに水滴が結露するのだろうか。

【予想】

窓ガラスの外側と内側の温度のちがいで起こる。

【実験】

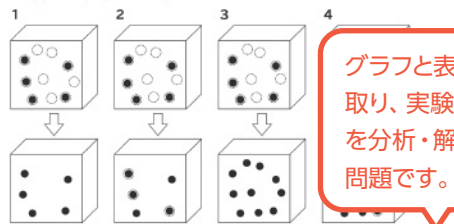
右の図のような装置をつくらせしめ置き、フラスコの底のようすを調べた。

?

- (1) 真理子さんは、フラスコの中を部屋の外の空気、ピーカーの中の空気を部屋の外の空気と見立てて、実験を行いました。寒い冬の日、暖房で部屋をあたためたときの部屋の窓ガラスの表面を調べるための実験は、どのようなと考えられますか。次の1～4から1つ選びなさい。

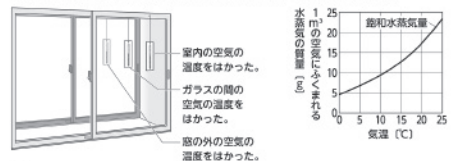


- (2) 窓ガラスに水滴が結露するようすを、粒子のモデルを使って表すようになります。次の1～4から1つ選びなさい。ただし、○は気体としてふくむことのできる水(水蒸気)、●は気体として空気中にふくまれている水(水蒸気)、●は結露によって出てきた水を表しています。



グラフと表を読み取り、実験の結果を分析・解釈する問題です。

- (3) 真理子さんは、結露しにくくする方法について調べたところ、部屋の窓を二重にするという方法を見つけました。真理子さんは、次の図のように、冬の寒い日に、窓の外側の空気温度、室内の空気温度、1枚目と2枚目のガラスの間の空気温度を、温度計で計りました。そのときの結果を、表にまとめました。また、気温と1m³の空気にふくまれる水蒸気の質量との関係を、次のグラフに表しました。



窓の外側の空気温度	室内の空気温度	ガラスの間の空気温度
2.5℃	19.0℃	8.5℃

これらのことから、窓を二重にすると、結露しにくくすることができるのはなぜだと考えられますか。その理由を簡潔に書きなさい。

条件制御の知識・技能を活用し、実験を立案する力を測る問題です。

見やすく読み間違えにくい、ユニバーサルデザインフォントを取り入れています。

中学校
国語

今日的な話題や日常生活に関連した話題を積極的に取り上げています。

友達の意見を受け
て推敲するという、
日常生活の中での
対話的な場面を
想定した問題です。

【発達の過程】

私は、オリンピックについて調べました。

紀元前七十七年に初めてオリンピックが開催されました。この頃のオリンピックを「近代オリンピック」とよびます。これは三九三年まで続きました。

その後、一八九四年、ピエール・ド・クーベルタンがオリンピックの復興を呼びかけました。これ以降は「近代オリンピック」とよびます。そして、一八九六年にギリシャのアテネで第一回オリンピックが開催されました。また、一九二四年には、冬のオリンピックがフランスのシャモニーで初めて開催されました。

オリンピックの根本的な考え方を記した「オリンピック憲章」を読むと、オリンピックには、スポーツを通じて優れた人間を育成し、平和な社会を築くという目的があることが分かります。

オリンピック競技大会は、そのための活動なのです。

日本が初めてオリンピック委員に就任したのは、一九〇九年に嘉納治五郎が国際オリンピック委員会に就任してからです。彼は、現在の「オリンピック憲章」に基調する考えを持っていました。

クーベルタンは、「オリンピックが最も重要なことは、勝つことではなく参加することである」という言葉を残しました。オリンピックは、参加することで、人々を一つに繋ぎ、平和を築くことです。私には、この考えを大切にしたいと思いました。

【資料A】オリンピック憲章からわかること

- ・オリンピックの根底には、スポーツは人間の心身を成長させ、優れた人間の育成に役立つという考えがある。
- ・オリンピックの目的は、スポーツを人間の発展や、平和な社会の実現のために役立てることである。
- ・オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの考え方に賛成したすべての個人と団体によって行われる活動のことである。

【資料B】オリンピックの歴史

年	開催地	特徴
紀元前七十七年	古代オリンピック	神をまつための行事として、オリンピックが開催されていた。これを近代オリンピックとよぶ。
一八九四年	パリ	パリで国際会議が開催され、ピエール・ド・クーベルタンが、オリンピックの復興を提唱した。これ以降は近代オリンピックとよぶ。
一八九六年	アテネ	第一回オリンピックがギリシャのアテネで開催された。
一九二四年	シャモニー	第一回の冬季オリンピックがフランスのシャモニーで開催された。

【資料C】クーベルタンの名言

「オリンピックで最も重要なことは、勝つことではなく参加することである。」

→オリンピックに参加することで、人々が交流し、将来的な世界の平和につながる。

【資料D】日本とオリンピックの関わり

嘉納治五郎が1909年に国際オリンピック委員会に就任

→日本がオリンピックに関わるきっかけ

嘉納は、体育によって体だけでなく、心も成長させられるという考えを持っていた。それには年齢や性別、国境は関係なかった。また、このような考えは、よりよい社会の実現にも生かされると思っていた。

【資料E】山田さんの「発達の過程」の下書き

山田さんは、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

① 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

② 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

③ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

④ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑤ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑥ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑦ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑧ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑨ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑩ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑪ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑫ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑬ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑭ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑮ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑯ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑰ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑱ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑲ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

⑳ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉑ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉒ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉓ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉔ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉕ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉖ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉗ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉘ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉙ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉚ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉛ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉜ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉝ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉞ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㉟ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊱ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊲ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊳ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊴ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊵ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊶ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊷ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊸ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊹ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊺ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊻ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊼ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊽ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊾ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

㊿ 山田さんは、「発達の過程」の下書きを、資料A～Dを参考に、次のように文章の構成を考えて書いてきました。

非連続型テキストの情報を関連づけた上で自分の考えをまとめ、相手に効果的に伝わるように文章の構成を考える問題です。

中学校
社会

小学校で学習した内容との系統性を重視した問題を取り入れています。生徒がつまづきやすい学習事項の定着を測ることができます。

(3) まさあきさんは、図書館の本で奈良時代の様子を探っていて、右の資料を見つけ、とても不思議な印象を受けました。

そこで、まさあきさんは、資料の内容について、さらに詳しく調べました。その結果、奈良時代にこれをつくらせた聖武天皇の考え方は、3代前の天皇である聖武天皇と共通点があることに気づきました。

その共通点、まさあきさんが、にいて、「仏教」について書きなさい。

資料 聖武天皇

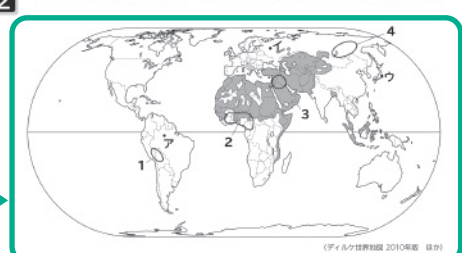
学習指導要領での重要事項である、
年表や白地図、グラフなどを用いた
問題を積極的に設定しています。

資料力	できごと
734	・全国規模の大規模な地震があり、多数の死者が出るなど大きな被害が出る。
737	・政權の中心にいた藤原氏の貴族4人が、大流行していた病気により相次いで死去し、藤原氏の力がおとろえ始める。
740	・藤原氏の貴族が朝廷に反発して兵を挙げ、敗れて死ぬ。
743	・聖武天皇が大仏の建立を命じる。
752	・東大寺の大仏が完成する。
757	・光明皇太后(聖武天皇の母)の後ろで勢力をのびた藤原仲麻呂が、対立する貴族をほろぼす。その後、絶大な権力をにぎる。
760	・光明皇太后が死去し、藤原仲麻呂の力がおとろえ始める。
764	・このころから、各地でいきなり多発するようになる。
764	・藤原仲麻呂が上皇と対立して兵を挙げ、敗れて死ぬ。
764	・勝利した上皇が再び即位して聖武天皇となり、百万塔の製作を命じる。
770	・聖武天皇が、陀羅尼を納めた百万塔を10の寺院に納める。

答えは解答用紙に書きなさい。

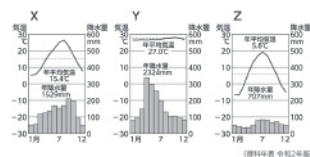
22

2 世界の気候と人々の生活について、次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



(1) 世界は大きく5つの気候帯に分けることができ、そのうち乾燥帯と寒帯を除く3つの気候帯では多くの木々が育ちます。

次のX～Zのグラフはそれぞれ、それら3つの気候帯のいずれかに属する、地図中のA～Wのいずれかの都市の気候を示しています。グラフと都市の組み合わせとして正しいものを、あとの1～4から1つ選びなさい。



1 X…イ Y…ア Z…ウ
2 X…イ Y…ア Z…ア
3 X…ウ Y…ア Z…イ
4 X…ウ Y…イ Z…ア

3

中学校2年地理

「目標標準拠評価方式」で子供た

～標準学力調査が積み上げた信頼の評価方式～

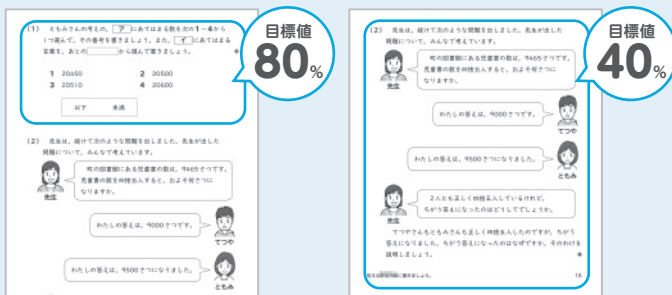
目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、

小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したものです。

「出題形式」や「解答形式」が持っている一般的な特性をもとに初期設定し、かつ、プレテストなどによって検証し、実際の正答率と大きく乖離したものについては補正したうえで決定しています。

1 小問ごとに設定される「目標値」

「目標値」は、その小問の難易度を表します。
値が小さいほど、難易度の高い問題です。



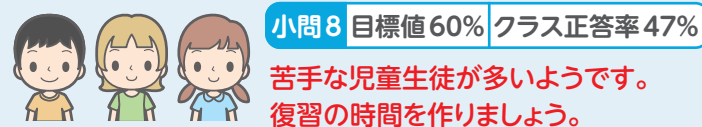
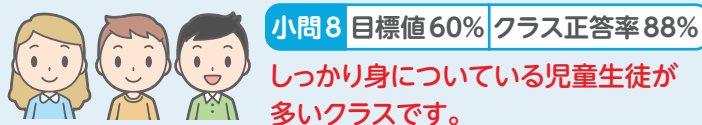
小問ごとの「目標値」の平均値が、
教科全体の「目標値」です。

小問 1	目標値 80%
小問 2	目標値 80%
小問 3	目標値 75%
小問 4	目標値 60%
小問 5	目標値 80%
小問 6	目標値 60%
小問 7	目標値 70%
小問 8	目標値 60%
小問 9	目標値 65%

教科総合
70%

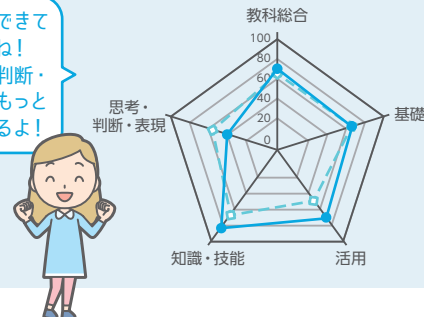
2 目標値と正答率を比較して到達状況を確認

集団（クラス、学校）の正答率を目標値と比較することで、
その後の授業設計に役立ちます。



一人ひとりの正答率を
目標値と比較することで、
学力向上の手立てが得られます。

基礎はできて
いるね！
思考・判断・
表現はもっと
伸ばせるよ！



「目標標準拠評価方式」のメリット

- 1 目標値は、受検者集団に依存しない、絶対評価的に用いることができる指標です。
- 2 教科総合、基礎、活用、観点や問題の内容、解答形式など、それぞれのカテゴリーの目標値は小問ごとに設定された目標値をもとに示されるため、カテゴリー正答率と比較することができます。

ちの到達度評価を!

「目標標準評価方式」の結果資料の例

【段】：段階評価方式の結果資料にも同様の資料が含まれます。

学校全体表(経年比較)

【段】

令和
〇〇年度

〇〇立〇〇小学校

同一集団の成長の過程を追う

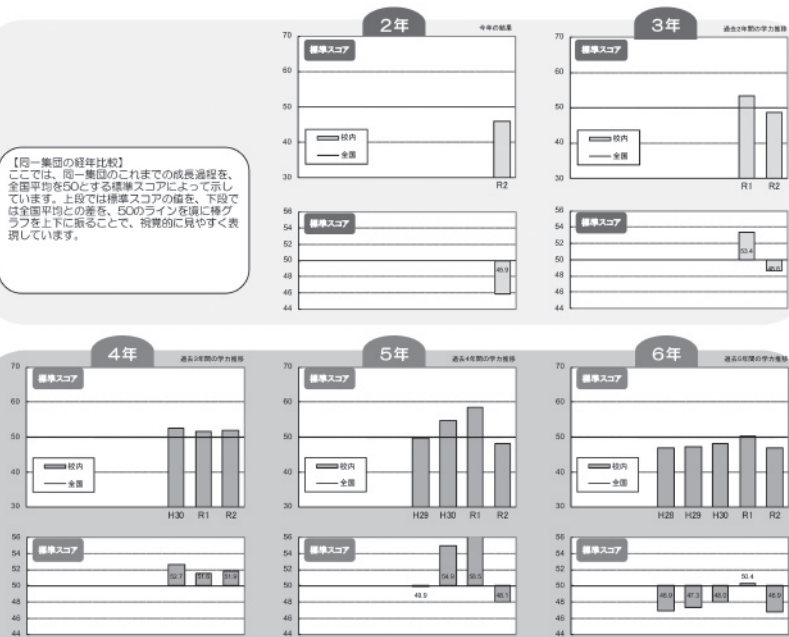
【標準スコア】による分析

算数

学校全体表
(経年比較)

資料の見方

教科ごとに、同一集団のこれまでの結果を経年で示しています。全国平均を50とする「標準スコア」による棒グラフで表し、最長6年間の学力推移の表示が可能です。



資料の見方

全学年/全教科の結果を、文部科学省が設定した【知識・技能】
【思考・判断・表現】の観点ごとに確認できます。

全体表(観点別)

【段】

標準学力調査

全体表〔観点別〕

〇〇立〇〇小学校

令和〇〇年度

学年		国語			社会			算数			理科			英語			全教科合計	
		知識・技能	思考・判断・表現	表現	知識・技能	思考・判断・表現	表現	知識・技能	思考・判断・表現	表現	知識・技能	思考・判断・表現	表現	知識・技能	思考・判断・表現	表現	正答率の合計	正答率の平均
2年	目標値	78.0	71.9	81.7				79.2	87.5	69.6								
	校内 平均正答率	74.2	60.4	76.9				78.3	66.9	66.6							152.5	76.3
	前年度 校内 平均正答率	90.8	92.8	98.8				89.0	87.0	80.8							179.8	89.9
	全国 平均正答率	79.4	69.7	87.1				84.0	88.3	72.7							163.4	81.7
	評価	△	△	△				△	△	△								
3年	目標値	74.6	71.9	78.4				72.0	80.5	64.2								
	校内 平均正答率	76.8	74.7	76.8				74.8	67.6	64.2							151.6	75.8
	前年度 校内 平均正答率	77.6	80.5	81.3				79.9	71.7	73.2							157.5	78.8
	全国 平均正答率	78.9	74.3	80.1				77.3	85.2	70.4							156.2	78.1
	評価	△	△	△				△	△	△								
4年	目標値	68.0	65.0	70.0	70.6	67.5	65.0	67.2	65.0	51.0	70.1	61.7	67.3					
	校内 平均正答率	74.6	69.7	76.9	63.7	57.7	55.1	78.1	77.0	67.3	67.6	63.3	65.2				284.0	71.0
	前年度 校内 平均正答率	91.2	90.5	85.4				89.9	88.5	82.5							181.1	90.6
	全国 平均正答率	71.9	67.2	74.1	76.4	72.4	70.5	74.8	71.2	61.8	73.3	67.0	71.2				266.4	74.1
	評価	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△					
5年	目標値	68.4	61.9	57.2	64.1	56.5	59.4	63.9	60.0	54.1	68.4	65.6	58.8	61.9	59.6	46.6		
	校内 平均正答率	67.9	60.7	56.7	53.4	45.5	49.5	67.0	65.3	60.6	57.8	53.2	49.2	63.7	62.0	49.8	309.8	62.0
	前年度 校内 平均正答率	83.7	76.3	68.1	59.1	52.6	54.2	72.3	58.3	63.5	58.5	57.8	54.8				273.6	68.4
	全国 平均正答率	73.3	64.2	59.9	69.1	60.5	64.0	71.0	65.2	63.7	67.7	66.4	62.9	62.3	61.4	46.8	343.4	68.7
	評価	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
6年	目標値	68.1	66.3	65.0	66.4	59.3	65.8	63.2	47.1	52.1	69.5	68.3	66.3	57.5	56.4	36.7		
	校内 平均正答率	69.5	69.5	67.9	71.0	63.1	70.9	63.4	43.4	49.4	72.2	74.0	73.7	58.3	55.5	38.7	334.4	66.9
	前年度 校内 平均正答率				58.4	52.1	61.3				64.7	64.3	64.0				123.1	61.6
	全国 平均正答率	74.3	72.3	69.2	69.5	62.6	70.2	69.8	52.7	61.0	72.1	70.6	70.0	59.0	56.2	36.7	344.7	68.9
	評価	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
評価数	△	1		1				1	3	2		1	1					
	△	4	4	4	1	1	1	4	2	3	2	1	1	2	2	2		
	▽				1	2	2				1	1	1					

※評価の記号は、目標値に対し、『△』上回っている、『▽』下回っている、『△』同等であることを示しています。

結果資料の納品方法は 右記の3パターンから お選びいただけます。

①紙帳票のみ

②データ (CD) のみ※①には含まれていない結果資料も入っています。

③紙帳票+データ (CD) ※追加料金 (1校あたり1,100円 (本体1,000円)) がかります。

資料の見方

設問ごとの解答類型の反応率を
示しています。
また、無解答率も確認できます。

資料の見方

選択問題における反応率の
3つの典型的なパターン
「逆転」「接近」「分散」に該当する
場合は表示されます。

誤答分析シート

段

標準学力調査		小学校5年 算数		誤答分析シート		〇〇立〇〇小学校 第5学年 令和〇〇年度	
問題番号	問題内容	正答率	誤答率	誤答率(%)	誤答率(%)	誤答率(%)	誤答率(%)
1	1. (1)	77.7	22.3	22.3	22.3	22.3	22.3
2	2. (2)	80.2	19.8	19.8	19.8	19.8	19.8
3	3. (3)	84.2	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8
4	4. (4)	72.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0
5	5. (5)	79.2	20.8	20.8	20.8	20.8	20.8
6	6. (6)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
7	7. (7)	61.7	38.3	38.3	38.3	38.3	38.3
8	8. (8)	61.3	38.7	38.7	38.7	38.7	38.7
9	9. (9)	61.3	38.7	38.7	38.7	38.7	38.7
10	10. (10)	54.2	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8
11	11. (11)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
12	12. (12)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
13	13. (13)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
14	14. (14)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
15	15. (15)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
16	16. (16)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
17	17. (17)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
18	18. (18)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
19	19. (19)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
20	20. (20)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
21	21. (21)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
22	22. (22)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
23	23. (23)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
24	24. (24)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
25	25. (25)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
26	26. (26)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
27	27. (27)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
28	28. (28)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
29	29. (29)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
30	30. (30)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
31	31. (31)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
32	32. (32)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
33	33. (33)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
34	34. (34)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
35	35. (35)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
36	36. (36)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0

記述問題等解答類型一覧

段

標準学力調査		小学校5年 算数		記述問題等解答類型一覧		〇〇立〇〇小学校 5年1組 令和〇〇年度	
問題番号	問題内容	正答率	誤答率	誤答率(%)	誤答率(%)	誤答率(%)	誤答率(%)
4	4. (4)	77.7	22.3	22.3	22.3	22.3	22.3
5	5. (5)	80.2	19.8	19.8	19.8	19.8	19.8
10	10. (10)	54.2	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8
12	12. (12)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
14	14. (14)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
16	16. (16)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
18	18. (18)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
20	20. (20)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
22	22. (22)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
24	24. (24)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
26	26. (26)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
28	28. (28)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
30	30. (30)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
32	32. (32)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
34	34. (34)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
36	36. (36)	58.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0

資料の見方

記述問題等の解答類型の
内容と、その類型ごとの
反応率を示しています。
無解答率も確認できます。

これらの資料から、児童生徒の書いた答案を具体的にイメージできます。
「このクラスは、計算問題はよくできているが、事象の説明は類型2が多いから、
あと一歩深く理解させたいな。」のように、指導方針に活かすことができます。

※各種個人別帳票には、児童生徒が書いた名前が掲載されます。プライバシーに配慮し、個人名を記載しない方法も可能です。

「段階評価方式」の学力調査で ～子供たちの「自ら学びに向かう力」を育成する

学習指導要領で育成が求められる資質・能力の一つに「自ら学びに向かう力」があります。

変化が激しく予測が困難な現代社会では、子供たちが主体的に学ぶ学習者として成長していくことが強く求められて「自ら学びに向かう力」でキーワードになるのは「自己調整力」です。

自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤しながら調整していく力は、自律した学習習慣を確立する上で重子供たち自身が、“自分は何がわかっていて、何がわからないのか”を知り、“何をどう勉強したらいいのか”を自分で判断そこで、東京書籍は、子供たちが理解の状況を客観的に認識し、次の学習活動の見通しをもつことができる、新しい評価

子供たちの
こんな悩みを
解決したい!

何が
わからないのか、
わからない…

結局、何を
勉強したらいいのが、
わからない…

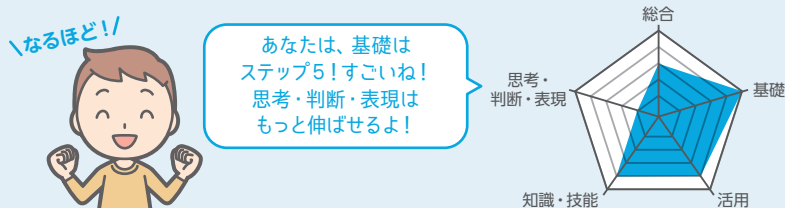
「段階評価方式」での新しい学力調査

1 新しい学力指標「ステップ」

「ステップ」は、最新のテスト理論をベースにした
5段階の“新しい学力のものさし”です。



さらに、学力を4つのカテゴリーに分け、それぞれをステップで測ります。



学力を「ステップ」でとらえることで、
自らの得意・不得意を認識することができます。

※1 問題には、教科正答率が高い子供ほど正解しやすい（識別力が高い）
識別力の高い問題に多く正解すると、ステップが高くなる傾向があり

「段階評価方式」のメリット

- 1 「潜在ランク理論（LRT）」をベースにすることで、問題の難易度と一人ひとりの正答・誤答のパターンを反映した子供の学力を、段階的に表すことができます。正答率は「全問題数のうち何問正解できたか」という考え方で表される指標ですので、難しい問題に正解しても易しい問題に正解しても、正答率にその差異は反映されません。「段階評価方式」では、どの問題を解くことができ、どの問題を間違えてしまったのかを分析することにより、その差異を明らかにします。

子供たちに新しい学びを!

視点に立って開発した新しい評価方式～

います。

要です。

していくことに、学力向上のカギがあるといえます。

方式「段階評価方式」を開発しました。

新しい学力指標「段階評価方式」とは?

東京書籍が学力調査の評価方式として新しく開発した「段階評価方式」とは、学力を5段階の「ステップ」に順序づけて分類する方法です。最新のテスト理論である「潜在ランク理論 (LRT: Latent Rank Theory)」に基づいて設計しており、ステップ間における学力の質的な差異を浮き彫りにすることができます。

② 個別最適化した「ステップアップ」 ③ より良い授業づくりが可能に

一人ひとりの子供の「ステップ」に合った
学力向上の手立てが得られます。



自分のステップに応じた
学習ができるから、
勉強がわかる!



自分のステップに合った学習内容や方法を見つけ、
学びに取り組むことが学力向上の近道です。

集団 (クラス、学校) の学力を「ステップ」で
とらえることで、その後の授業設計に役立ちます。



子供たちに寄りそったPDCAを実現することにより、
よりわかりやすい授業が可能になります。

わからなかったところが
わかるようになった!

勉強が楽しくなった!
もっと学びたい!



子供たちの「ステップ」をもとに、学力を伸ばす
カリキュラムマネジメントが実現できます。

問題、易しすぎて皆できる問題、難しすぎて誰もできない問題などのタイプがあります。

② 正答率の1ポイント、2ポイントの違い (差) について、学力の質的な意味に言及することはなかなか困難です。その点、「段階評価方式」では、子供が到達している学力段階を明確に切り分けて示すことができます。「段階評価方式」を使うことで、各ステップの学力段階から、次のステップに上がるための学びの目標が見えやすくなります。「新しい学力のものさし」で見えてくる学力段階は、授業づくりを通して集団全体のステップアップを目指すための指針となります。

「段階評価方式」の結果資料の例

ステップ別人数比(全体)

標準学力調査+

学校全体表〔達成率・ステップ別人数比〕

〇〇立〇小学校

令和〇〇年度

学 年		国語					社会					算数					理科					英語										
		評価	ステップ別人数比					評価	ステップ別人数比					評価	ステップ別人数比					評価	ステップ別人数比					評価	ステップ別人数比					
			達成率	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4		達成率	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4		達成率	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4		達成率	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4		達成率	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	
2年	校内		74.9	8.3	16.8	32.0	23.0	19.9							88.6	2.3	9.1	29.5	40.9	18.2												
	前年度 校内		88.8	2.0	11.3	20.5	29.1	37.1							85.7	0.0	14.3	42.9	35.7	7.1												
	市町村	▼	88.4	3.6	8.0	33.9	26.8	27.7							88.4	3.6	8.0	33.0	40.2	15.2												
	前年度 市町村		84.4	1.1	14.4	23.3	38.9	22.2							83.2	4.1	12.7	23.2	32.5	27.5												
	全国		80.7	5.1	14.2	29.2	30.1	21.4							73.4	6.4	20.1	27.8	32.5	13.1												
3年	校内		85.3	4.4	10.3	29.4	42.6	13.2							88.2	0.0	11.8	13.2	47.1	27.9												
	前年度 校内		81.2	3.6	15.2	27.4	39.2	14.6							81.4	4.6	14.1	24.4	37.9	19.0												
	市町村	△	86.5	3.1	10.4	28.1	43.8	14.6							90.8	0.0	9.4	16.7	49.0	25.0												
	前年度 市町村		82.1	4.1	13.9	22.3	36.7	23.0							87.9	2.9	9.3	22.5	42.4	22.9												
	全国		76.3	6.1	17.7	26.8	33.7	15.9							83.5	4.1	12.4	25.8	37.9	19.9												
4年	校内		84.4	4.7	10.9	29.7	35.9	18.8	71.9	4.7	23.4	21.9	34.4	15.6	79.7	6.3	14.1	28.1	43.8	7.8	70.3	7.8	20.4	37.0	20.4	81.8	1.8	16.4	41.8	27.3	12.7	
	前年度 校内		83.5	3.7	12.8	24.3	33.2	26.0	72.3	4.6	23.1	18.5	36.9	16.9	79.1	6.1	14.8	25.2	25.2	28.7	70.3	12.2										
	市町村	△	83.3	4.2	12.5	30.2	34.4	18.8	71.9	3.1	25.0	22.9	35.4	13.5	78.1	6.3	15.6	34.4	35.4	8.3	75.0	5.2										
	前年度 市町村		83.8	3.0	13.2	25.4	38.3	20.1	72.7	11.4	15.9	38.6	15.9	18.2	74.4	5.4	20.2	25.6	34.1	14.7	74.1	5.9	20.4									
	全国		75.4	5.9	18.7	28.9	30.3	16.3	72.1	8.8	19.1	25.1	32.4	14.6	71.5	8.9	19.6	26.5	30.7	14.3	68.0	9.4	22.6	27.9	27.9	12.3						
5年	校内		82.9	4.9	12.2	25.6	29.3	28.0	62.2	15.9	22.0	25.6	34.1	2.4	68.3	11.0	20.7	28.0	25.6	14.6	75.6	7.3	17.1	29.3	32.9	13.4	81.8	1.8	16.4	41.8	27.3	12.7
	前年度 校内		79.7	4.7	15.5	24.6	28.4	26.7	68.9	12.2	18.9	30.0	26.7	12.2	67.6	9.6	22.8	23.5	27.2	16.9	73.3	8.1	18.6	27.9	27.9	17.4	77.4	8.6	14.0	24.7	25.8	26.9
	市町村	△	80.9	5.5	13.6	22.7	33.6	24.5	61.8	15.5	22.7	26.4	31.8	3.6	67.3	9.1	23.6	30.0	24.5	12.7	76.4	7.3	16.4	27.3	34.5	14.5	84.7	1.2	14.1	37.6	29.4	17.6
	前年度 市町村		77.6	6.1	16.3	30.6	32.7	14.3	61.2	12.9	25.9	30.2	23.3	7.8	65.2	8.7	26.1	23.2	29.0	13.0	71.3	6.4	22.3	10.6	35.1	25.5	75.4	7.7	16.9	26.1	27.5	21.8
	全国		76.0	6.3	17.7	26.4	33.5	16.1	65.9	10.7	23.4	29.3	25.3	11.3	68.3	9.3	22.4	26.9	27.4	14.0	69.6	9.1	21.3	28.0	29.5	12.1	73.3	6.2	20.4	33.6	25.1	14.6
6年	校内		81.8	1.8	16.4	41.8	27.3	12.7	87.3	0.0	12.7	21.8	50.9	14.5	74.1	5.6	20.4	40.7	27.8	5.6	81.5	3.7	14.8	24.1	37.0	20.4	69.4	9.7	20.9	29.7	25.9	13.8
	前年度 校内		79.6	3.6	16.8	29.3	33.7	16.6	80.4	5.6	13.9	29.2	36.3	15.0	77.4	5.7	17.0	30.2	32.1	15.1	80.2	4.5	15.3	27.1	34.2	18.9	78.2	6.0	15.8	24.6	32.9	20.7
	市町村	△	84.7	1.2	14.1	37.6	29.4	17.6	87.1	1.2	11.8	22.4	48.2	16.5	78.6	3.6	17.9	40.5	31.0	7.1	83.3	2.4	14.3	27.4	36.9	19.0	83.3	4.2	12.5	30.2	34.7	18.4
	前年度 市町村		79.3	6.2	14.5	28.6	37.3	13.4	79.1	4.9	16.0	25.5	35.7	17.9	75.0	3.3	21.7	25.0	28.3	21.7	78.9	5.9	15.2	30.8	28.5	19.8	79.5	3.9	16.6	26.4	34.4	18.4
	全国		73.5	6.2	20.4	33.6	25.1	14.6	75.2	7.5	17.3	24.8	33.3	17.1	70.5	6.8	22.7	27.6	27.9	15.0	67.0	9.6	23.4	28.1	26.6	12.3	75.4	5.9	18.7	28.9	30.3	16.3

資料の見方

教科ごとの「ステップ(学習到達度)別人数比と達成率を示しています。

※「段階評価方式」での達成率は、ステップ5+ステップ4+ステップ3の割合

※達成率は、ステップ3～4の割合を数えています。

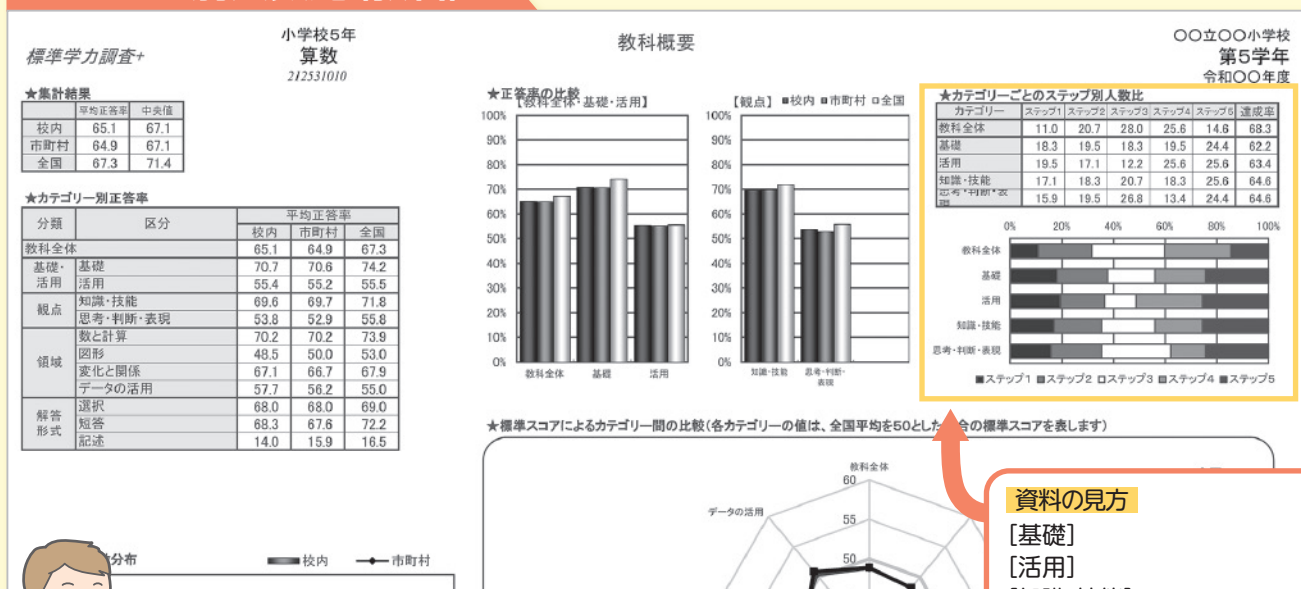
※評価の記号は、全国の達成率に対し、『△』…上回っている、『○』…同程度、『▽』…下回っているを表しています。

資料の見方

教科ごとの「ステップ(学習到達段階)」の人数比と達成率を示しています。

※「段階評価方式」での達成率は、ステップ5+ステップ4+ステップ3の割合です。

ステップ別人数比(教科)



資料の見方

【基礎】
【活用】
【知識・技能】
【思考・判断・表現】
の4つのカテゴリごとの「ステップ別人数比」を示しています。



これらの資料から、正答率だけでは読み取ることができない「集団の特徴」をつかむことができます。
「このクラスは、ステップ3以下の割合が大きい。」
「基礎は定着しているが、活用はまだ伸びしろがある。」
のように、集団の学力の特徴をより多角的にとらえることができます。

ステップ別分析シート

標準学力調査			小学校5年 算数			ステップ別分析シート			〇〇立〇〇小学校 第5学年 令和〇〇年度		
【校内】			問題の内容			出題のねらい			ステップ別正答率		
問題番号	大問番号	小問番号	解答形式	問題の内容	出題のねらい	基礎・応用	難易度	問題	ステップ1	ステップ2	正答率
1	(1)	短答	②わり算・計算のきまり	2けた÷1けた÷2けた(帯余り)の計算ができる。	②	②	②	1	77.8	76.5	91.3
2	(2)	短答	②わり算・計算のきまり	3けた÷2けた÷2けた(帯余り)の計算ができる。	②	②	②	2	33.3	41.2	39.1
3	(3)	短答	③小数	整数÷小数(2けた)の計算ができる。	②	②	②	1	11.1	47.1	47.8
4	(4)	短答	③小数	小数÷整数(2けた)の計算ができる。	②	②	②	2	11.1	47.1	43.5
5	(5)	短答	④分数	真分数÷真分数(2けた)の計算ができる。	②	②	②	2	44.4	58.8	82.6
6	(6)	短答	④分数	真分数÷真分数(3けた)の計算ができる。	②	②	②	1	44.4	64.7	95.7
7	(7)	短答	③小数	小数÷整数(2けた)の計算ができる。	②	②	②	1	55.6	58.8	92.6
8	(8)	短答	③小数	小数÷整数(2けた)の計算ができる。	②	②	②	2	22.2	41.2	73.9
9	(9)	選択	①数と量・計測の単位	十進法で表された数について理解している。	②	②	②	1	33.3	52.9	95.7
10	(10)	選択	①数と量・計測の単位	十進法で表された数について理解している。	②	②	②	2	22.2	41.2	47.8
11	(11)	選択	④分数	数直線上に示された分数の読み取りができる。	②	②	②	1	66.7	70.6	78.3
12	(12)	選択	③小数	小数の読み取りができる。	②	②	②	1	33.3	58.8	87.0
13	(13)	選択	③小数	小数の読み取りができる。	②	②	②	2	66.7	52.9	60.9
14	(14)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	11.1	41.2	60.9
15	(15)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	1	77.8	82.4	100.0
16	(16)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	33.3	47.1	34.9
17	(17)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	11.1	35.3	65.2
18	(18)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	1	33.3	64.7	69.6
19	(19)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	11.1	41.2	58.5
20	(20)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	3	0.0	17.8	65.2
21	(21)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	11.1	47.1	78.3
22	(22)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	33.3	41.2	73.9
23	(23)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	1	44.4	76.5	91.3
24	(24)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	5	11.1	23.5	58.5
25	(25)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	22.2	64.7	82.6
26	(26)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	5	11.1	23.5	58.5
27	(27)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	44.4	52.9	60.9
28	(28)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	2	0.0	29.4	58.5
29	(29)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	1	0.0	70.6	95.7
30	(30)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	4	0.0	17.8	47.8
31	(31)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	3	0.0	17.8	65.2
32	(32)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	5	0.0	0.0	4.3
33	(33)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	3	11.1	35.3	87.0
34	(34)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	3	11.1	47.1	60.9
35	(35)	選択	④分数	新分数、約分、整数、真分数の読み取りができる。	②	②	②	5	0.0	0.0	4.3

小問ごとに児童生徒のステップ間の
どこでいちばん大きな正答率の差が
できているのかがわかり、
定着度の実態を確認することが
できます。
ステップごとのつまずきが
より明確になり、
指導改善の手がかりが得られます。

資料の見方

ここでは小問ごとのステップ別正答率を
示しています。
隣り合うステップ間の正答率の差が最も
大きいところを、太い線で表しています。
正答率が同じ設問でも、
どのステップの層までが正答していて、
どのステップの層からつまづいているの
かがひと目でわかります。

例

	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4	ステップ 5	正答率
小問A	16.1	37.7	61.3	96.8	100.0	53.4
小問B	9.7	33.4	71.0	90.3	100.0	53.4

小問AとBは、同じ正答率ですが、
小問Aはステップ4以上の層は定着
しており、小問Bはステップ2以下の
層に課題があるといえます。

クラス別成績集計表

標準学力調査+			クラス別成績集計表(ステップ)			〇〇立〇〇小学校 5年1組 令和〇〇年度		
出題番号	大問番号	小問番号	問題	解答形式	問題	出題番号	大問番号	小問番号
1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	1	2	2	2	2	2	1	2
3	1	3	3	3	3	3	1	3
4	1	4	4	4	4	4	1	4
5	1	5	5	5	5	5	1	5
6	1	6	6	6	6	6	1	6
7	1	7	7	7	7	7	1	7
8	1	8	8	8	8	8	1	8
9	1	9	9	9	9	9	1	9
10	1	10	10	10	10	10	1	10
11	1	11	11	11	11	11	1	11
12	1	12	12	12	12	12	1	12
13	1	13	13	13	13	13	1	13
14	1	14	14	14	14	14	1	14
15	1	15	15	15	15	15	1	15
16	1	16	16	16	16	16	1	16
17	1	17	17	17	17	17	1	17
18	1	18	18	18	18	18	1	18
19	1	19	19	19	19	19	1	19
20	1	20	20	20	20	20	1	20
21	1	21	21	21	21	21	1	21
22	1	22	22	22	22	22	1	22
23	1	23	23	23	23	23	1	23
24	1	24	24	24	24	24	1	24
25	1	25	25	25	25	25	1	25
26	1	26	26	26	26	26	1	26
27	1	27	27	27	27	27	1	27
28	1	28	28	28	28	28	1	28
29	1	29	29	29	29	29	1	29
30	1	30	30	30	30	30	1	30
31	1	31	31	31	31	31	1	31
32	1	32	32	32	32	32	1	32
33	1	33	33	33	33	33	1	33
34	1	34	34	34	34	34	1	34
35	1	35	35	35	35	35	1	35

資料の見方

児童生徒一人ひとりについて、
教科ごとの「基礎」「活用」「知識・技能」
【思考・判断・表現】のステップと正答率が
一覧で表示されます。

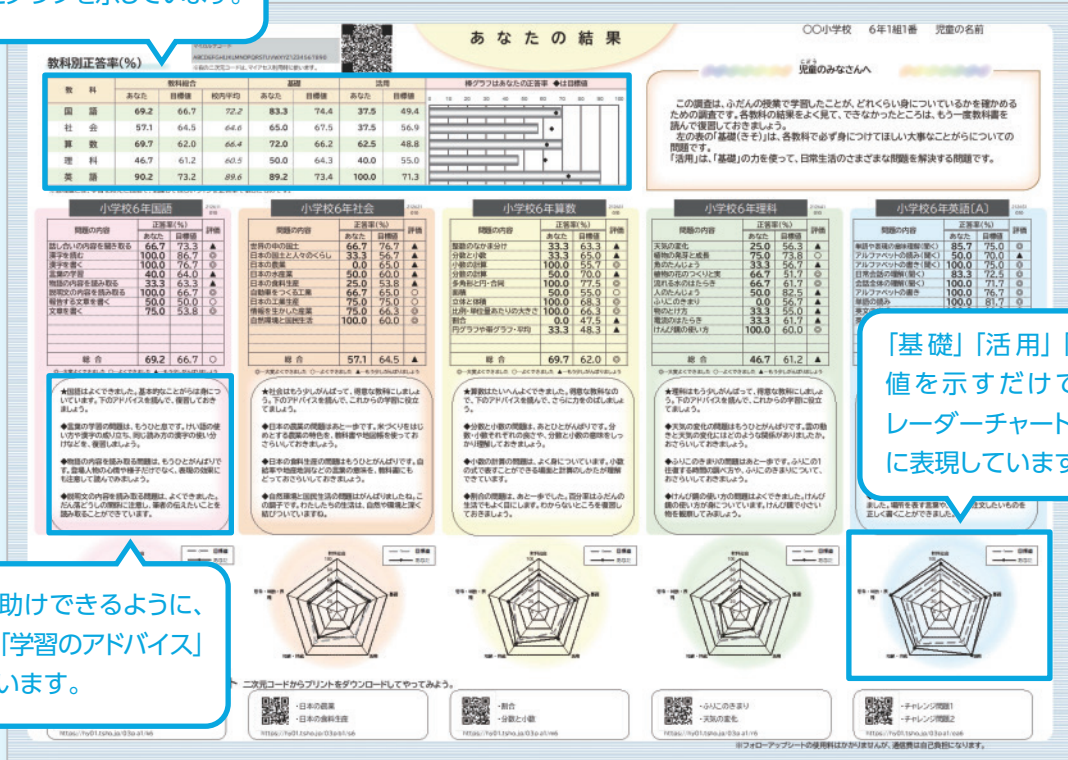
Aさんは、
国語の「思考・判断・表現」と、
理科の「知識・技能」を
もっと伸ばせるね！

一人ひとりの児童生徒の
学力の特徴をより詳細に
とらえることで、
個別指導に活かせます。

標準学力調査の個人票

目標準拠評価方式

全受検教科の結果状況が一覧できる表とグラフを示しています。



復習を手助けできるように、具体的な「学習のアドバイス」を載せています。

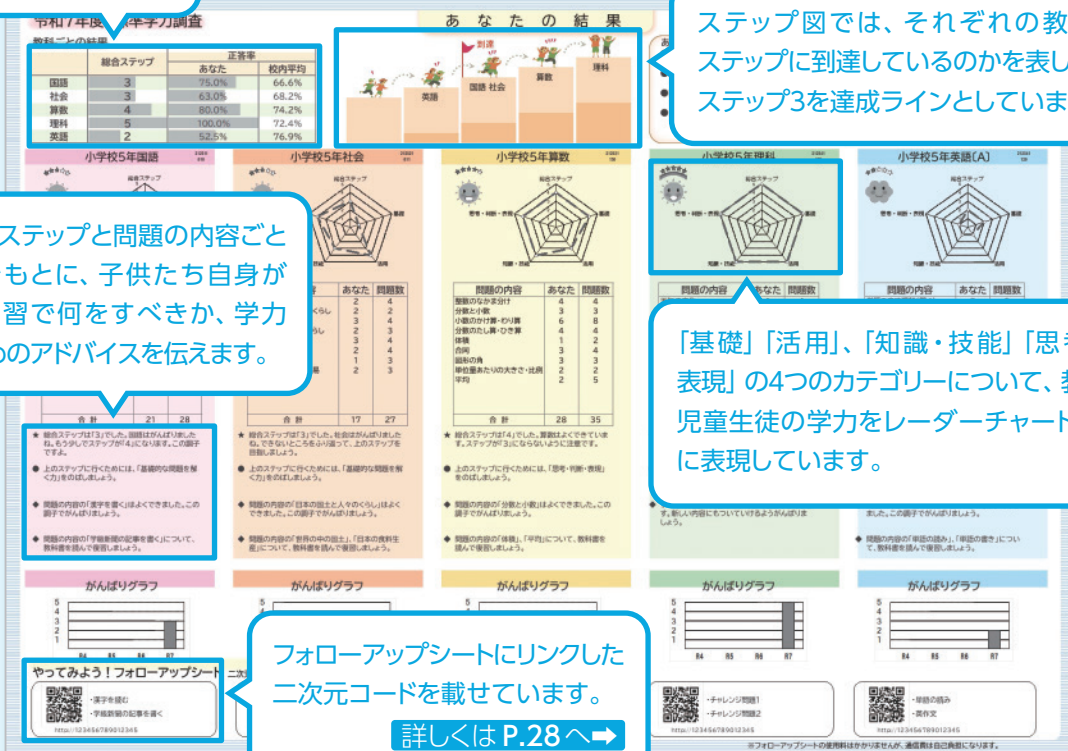
「基礎」「活用」「観点」の値を示すだけではなく、レーダーチャートで視覚的に表現しています。

各教科における学習到達段階を「ステップ」で表しています。

段階評価方式

ステップ図では、それぞれの教科がどのステップに到達しているのかを表しています。ステップ3を達成ラインとしています。

各教科のステップと問題の内容ごとの結果をもとに、子供たち自身が日々の学習で何をすべきか、学力UPのためのアドバイスを伝えます。



フォローアップシートにリンクした二次元コードを載せています。

詳しくは P.28へ

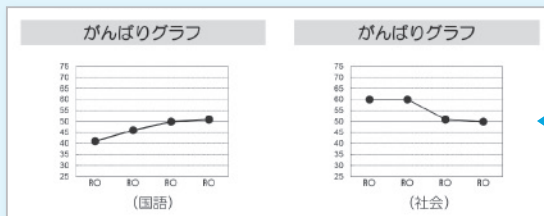
個人経年比較

オプションで個人票に、
「がんばりグラフ」を
用意しました。
一人ひとりの調査結果の
推移がわかります。

※本サービスの提供には、
別途**オプション料金1人あたり
53円(本体48円)**をいただきます。

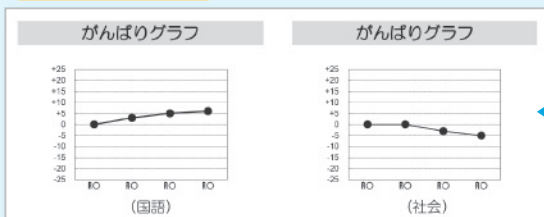
※右記の3種類からお選びいただけます。

標準スコア



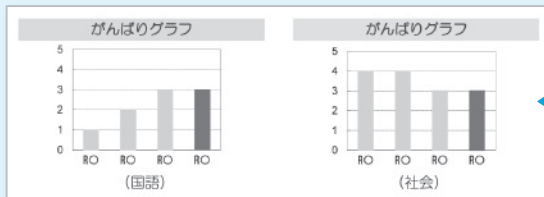
教科ごとの成績(標準スコア)を毎年プロットし、折れ線グラフで学力の推移を表します。

自己内評価



調査初年度の成績を、全教科横並びで0に設定し、これを基点にして以降の学力の推移を折れ線グラフで表します。

ステップ評価 (段階評価方式のみ)



教科ごとの成績(総合ステップ)を毎年プロットし、棒グラフで学力の推移を表します。

個人票の裏面

個人票の見方

児童・保護者の方へ

個人票の裏面には、児童生徒や保護者用に「個人票の見方」を示しています。

教科別正答率(%)

教科	教科総合		基礎		活用		標準グラフはあなたの正答率 ◆は目標値
	あなた	目標値	あなた	目標値	あなた	目標値	
国語	84.5	68.4	67.9	87.5	71.3	70.0	55.0
社会	61.1	64.1	53.4	61.4	66.6	60.0	53.0
算数	76.3	63.9	67.0	81.3	66.9	50.0	48.3
理科	72.7	66.4	57.8	69.2	68.3	85.7	59.3
英語	75.6	82.9	70.0	77.4	82.4	70.0	84.5

※目標値とは、学習を継続する児童、到達して欲しいラインを正答率で算出したものです。

3 小学校5年国語

問題の内容	正答率(%)		評価
	あなた	目標値	
国語の読み取り	76.7	58.3	▲
漢字を書く	100.0	80.0	○
漢字を音で	80.0	67.5	○
漢字の読み	100.0	62.0	○
漢字の読み	100.0	78.8	○
漢字の読み	100.0	73.3	○
漢字の読み	100.0	66.3	○
総合	84.5	68.4	○

4 小学校5年社会

問題の内容	正答率(%)		評価
	あなた	目標値	
世界の国と人々	50.0	55.0	○
日本の国と人々	100.0	74.2	○
世界の国と人々	100.0	40.0	▲
世界の国と人々	100.0	76.3	○
世界の国と人々	0.0	51.7	▲
世界の国と人々	66.7	58.3	○
世界の国と人々	97.5	68.8	○
世界の国と人々	40.0	53.0	▲
総合	61.1	64.1	○

5 小学校5年算数

問題の内容	正答率(%)		評価
	あなた	目標値	
算数の読み取り	50.0	72.5	▲
算数の読み取り	100.0	68.8	○
算数の読み取り	100.0	62.5	○
算数の読み取り	88.9	67.2	○
算数の読み取り	100.0	68.8	○
算数の読み取り	50.0	70.0	○
算数の読み取り	50.0	42.5	○
算数の読み取り	75.0	66.3	○
算数の読み取り	0.0	62.5	▲
総合	76.3	63.9	○

6 やってみたい！フォローアップシート

二次元コードからプリントをダウンロードしてやってみたい。

・算数のなま分け
・算数
・算数

・算数のなま分け
・算数
・算数

・算数のなま分け
・算数
・算数

この調査は、あなたの授業で学習したことが、どれくらい身についているかを確かめるための調査です。各教科の結果をよく見て、できなかったところは、もう一度教科書を読み直して復習しておきましょう。
左の表の「基礎(きそ)」は、各教科で必ず身につけてほしい大事なことから選んでいます。
「活用」は、「基礎」の力をを使って、日常生活のさまざまな問題を解決する問題です。

1 この調査は、あなたの授業で学習したことが、どれくらい身についているかを確かめるための調査です。各教科の結果をよく見て、できなかったところは、もう一度教科書を読み直して復習しておきましょう。
左の表の「基礎(きそ)」は、各教科で必ず身につけてほしい大事なことから選んでいます。
「活用」は、「基礎」の力をを使って、日常生活のさまざまな問題を解決する問題です。

2 教科ごとに「総合」「活用」における、あなたの結果と目標値を表しています。「目標」とは、到達してほしい目標ラインとなる正答率です。教科ごとや学習内容のまとまりごとに算出したものです。棒グラフは、あなたの「教科総合」の正答率を表しています。◆で示された目標値と比べてみてください。

3 「問題の内容」ごとに、あなたの正答率と目標値を表しています。「評価」の欄は、目標値を基準として以下の3段階で表しています。
○…目標値を上回っている
○…目標値と同等
○…目標値を下回っている
どの問題の内容が自分の弱点なのか確かめましょう。

4 各教科の学習に役立ててもらうために、総合評価と学習のアドバイスを示しています。
★で始まる文は「重要なポイント」です。教科全体の出来栄や、あなたへのメッセージを述べています。
◆で始まる文は「重要なポイント」です。教科全体の出来栄や、あなたへのメッセージを述べています。

5 基礎・活用や教科の総合正答率を、レーダーチャートで視覚的に示しています。「総合」「活用」の正答率に加え、文部科学省が設定している3つの観点のうち「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率を、レーダーチャートで1つのグラフにまとめています。あなたの強(●)と、目標値(○)を比べて、どの項目がよくできていたか、どの項目に課題があるのかを確かめて、今後の学習に役立ててください。

6 やってみたい！フォローアップシートの二次元コードと、取り込んでほしい「問題の内容」を示しています。

※フォローアップシートの使用は無料ですが、通信料は自己負担になります。

小学校外国語の教科化に伴い、標準学力調査に小学校英語が加わりました。小学校・中学校ともに、「聞く」「読む」「書く」の3技能からバランスよく出題し、リスニング問題と筆記問題で構成しています。

小学校英語

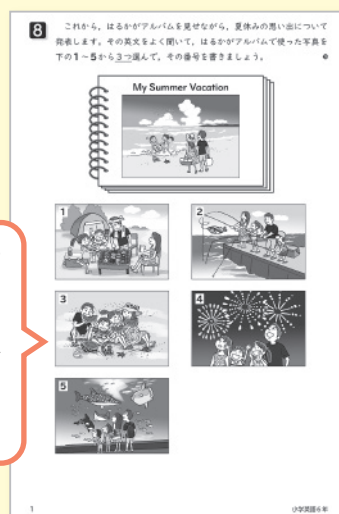
小学校英語の学習内容について定着状況を確認し、つまずきやすい課題を明らかにすることによって、小中の接続をスムーズにします。

3 これから、アルファベットを言います。そのアルファベットを、
(1)と(2)は大文字で、(3)と(4)は小文字でそれぞれ書きましょう。

アルファベットの読み方を聞いてアルファベットを書く問題では、結果資料に誤答類型を載せています。誤答を主に以下の4つのパターンに分類し、誤答の原因を明らかにします。

- ①大文字と小文字の書き間違い
- ②4線上の位置の間違い
- ③読み方の似た文字との間違い
- ④形の似た文字との間違い

身近なやり取りの場面や、発表学習の場面を通して、具体的な情報を聞き取る力、概要をとらえる力を測ります。



聞く

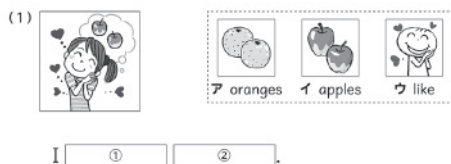
10 次の絵にあてはまる英語を、右の1～4から1つずつ選んで、その番号を書きましょう。



音声で十分に慣れ親しんだ言葉を読むことができるかを問う問題です。小学校6年生の3学期版以降では、音声を聞きながら英文を読み、内容の理解を問う問題も出題しています。

読む

11 次の絵の内容に合うように、あとの①、②に入る言葉を、それぞれ.....から正しい順序で選んで、英文を完成させましょう。答えは、ア～ウの記号で書きましょう。



書く問題では、キーワードとなる英語を書き写したり、例文や語群を参考にしながら、自分の気持ちや考えを表現したりする問題を出題します。

小学校6年生の3学期版以降では、語順の理解を問う問題を出題しています。

解答用紙には、第2線と第3線の間が広い4線を採用。小文字も書きやすい仕様です。

_____ is from _____.

_____ is good at _____.



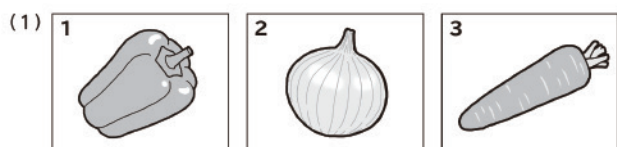
書く

Let's
Listen!

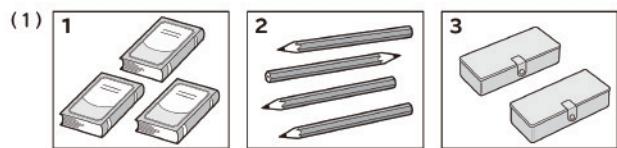
小学校5年生 英語調査 「レッツ リッスン！」

文部科学省発行の小学校英語教材「Let's Try!」に対応した内容の評価テストです。
小学校中学年までの基礎固めをしっかりとすることで、高学年での学習につなげます。

1 これから、いくつかのことばを言います。そのことばにあてはまる絵を、次の**1～3**から1つずつ選んで、その番号を書きましょう。 ●●●●●●●●●●



3 これから、英語で質問をします。その質問の答えとなるものはどれですか。次の**1～3**から1つずつ選んで、その番号を書きましょう。 ●●●●



まず、身近な単語の聞き取り問題から始まり、その後、日常場面を想定した対話の聞き取り問題があります。あいさつ、やり取り、自己紹介など、基本的な英語の理解を確認します。

アルファベットの聞き取り問題では、文字と読み方の結びつきを確認します。

2 これから、いくつかのアルファベットを言います。そのアルファベットを、次の**1～3**から1つずつ選んで、その番号を書きましょう。 ●●●●●●●●●●

(1) 1 **E** 2 **F** 3 **H**

「レッツ リッスン！」の特長

●文部科学省教材「Let's Try!」に対応

文部科学省 外国語活動教材「Let's Try!」に完全準拠した内容です。小学校3・4年生で学習した内容から網羅的に出題しています。

●「できる」「楽しい」が実感できる

イラストが豊富で、はじめて英語のテストを受ける子供たちでも安心してご実施いただけます。

●問題はすべてリスニング方式

すべて音声CDによる聞き取り問題です。また、すべて選択肢式となっており、子供たちにとって取り組みやすい内容となっています。

●定着状況が確認できる結果資料

先生用の資料では、子供たちの苦手な内容や、どのような間違いをしているのかを具体的に把握することができ、今後の指導に活かします。

商品の概要

- 実施学年・時期：小学校5年生・1学期実施
- 実施方法：すべて音声CDによる聞き取り問題
- 問題数：全38問
- 令和8年度価格：1人あたり420円（本体382円）

- 実施時間：20分程度
- 出題範囲：「Let's Try!1・2」の全範囲
- 解答形式：すべて選択問題

Let's
Speak
English!

中学校英語 「英語スピーキング調査」

英語の4技能の1つである「話すこと」の力を正しく測ることのできる調査です。

「質疑応答」、「やり取り」、「スピーチ」の出題に加え、

発音等の正しさを測る「音読」の問題（「読むこと」の評価）も出題します。

やり取りの問題では、提示された状況に
即興で対応する「生きた英語力」を問い
ます。

やり取りの問題



音読の問題



音読の判定は、人間の判断ではぶれが生
じてしまいがちです。この調査では、音声
解析技術を使い、公平な判定を行います。

「英語スピーキング調査」の特長

●英語の4技能をトータルで評価

標準学力調査と同時に実施していただくことで、聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと【やり取り】【発表】を網羅的に評価できます。

●学校の負担が少ないCBT調査

この調査は、インターネットに接続したコンピュータを使用し、学校で使用されているWebブラウザ上で調査URLに接続するオンライン方式で行います。データを保存するなどの作業は必要ありません。

●すべての教科書に準拠

この調査で扱われる単語、文法は、現在使用されているすべての教科書に準拠しています。未学習の単語や文法に戸惑うことなく、日々の学習の成果を測ることができます。

●実績のあるCBTシステム「TAO」を採用

「TAO」は、国内外での大規模調査で実績のあるCBTシステムです。シンプルな操作で受検することができるので、PCの操作に不慣れな生徒も安心して受検できます。

商品の概要

- 実施学年：〔1学期実施版〕中学校2、3年生 〔3学期実施版〕中学校1、2年生
- 実施方法・時間：1グループ（20人程度）につき、20～25分程度
- 解答形式：PCに差し込んだヘッドセットを使用した口述式
- 問題数：全8問（音読：1問、質疑応答：5問、やり取り：1問、スピーチ：1問）
- 販売価格：1人あたり1,650円（本体1,500円）

※ご実施いただくためには、使用するPCが一定の条件を満たしている必要があります。詳しくは担当者にお問い合わせください。

※問題はサンプルです。※仕様等は、予告なく変更することがあります。 21

総合質問紙調査

i-check

学習指導要領の改訂に伴い、
主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて、
学校で取り組みが進められていることと思います。
そして、学びの基盤となる学級経営にも、
ますます関心が寄せられています。
i-checkは、「自己肯定感」や「ソーシャルスキル」
などの様々な視点で、子供の個性や背景、
今の心のありようを、立体的に描き出す調査です。
子供たち一人ひとりが自分を大切に思っているか、
クラスの人間関係、いじめの実態、悩みなど、
表出しにくい様々な情報を可視化します。
先生方の学級経営や総合的な児童生徒理解に
お役立ていただけたら幸いです。

質問群のカテゴリー

第1	第2	第3
自己認識	愛されていますか	家族のささえ
		友だちのささえ
	自己肯定感	先生のささえ
		成功体験と自信
		充実感と向上心
社会性	ソーシャルスキル	感動体験
		他者からの評価
		規範意識
	社会参画	思いやり（人間関係構築力）
学級環境	学級風土	発信力
	リスク管理	対話・話し合い
		社会参画
学習生活・習慣	生活習慣	学級の規範意識
	学習習慣	学級の絆
		いじめのサイン
		対人ストレス
	生活習慣	生活習慣
	学習習慣	学習習慣
		学習意欲

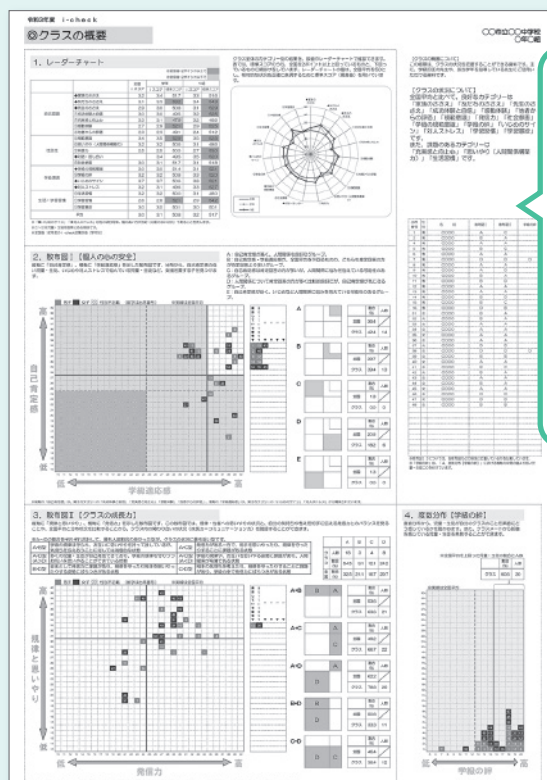
結果資料一覧

- 学年資料
 - ・学年の概要
 - ・回答構成比
- クラス資料
 - ・リスクマネジメント票
 - ・クラスの概要
 - ・回答結果一覧（質問別、カテゴリー別）
 - ・個人票【先生用】
- オプション
 - ・道徳関連資料
 - ・学力とのクロス集計
 - ・年度内複数回実施の推移
- 返却資料
 - ・個人票【児童生徒用】

i-checkの工夫

結果資料の紹介

クラスの概要



「クラスの概要」では、レーダーチャートや散布図、度数分布などにより、クラスの現状や課題、成長力等を把握・分析していただけます。

回答結果一覧

質問別	回答結果一覧
自己認識	自己認識に関する質問の回答結果一覧
社会性	社会性に関する質問の回答結果一覧
学級環境	学級環境に関する質問の回答結果一覧
学習生活・習慣	学習生活・習慣に関する質問の回答結果一覧

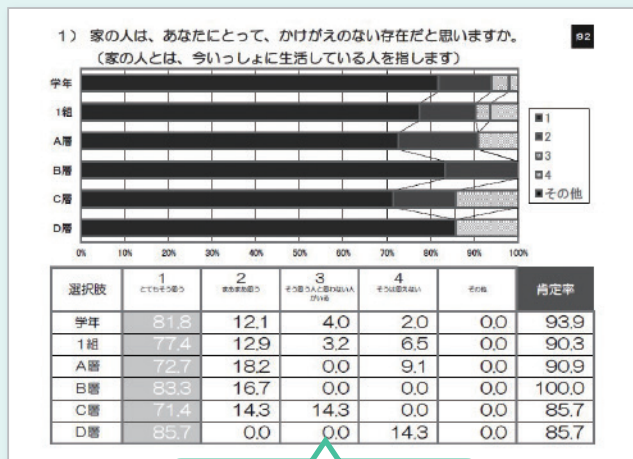
「回答結果一覧（質問について、詳細に分析（カテゴリー別）」では、確認できます。

総合質問紙調査 i-check

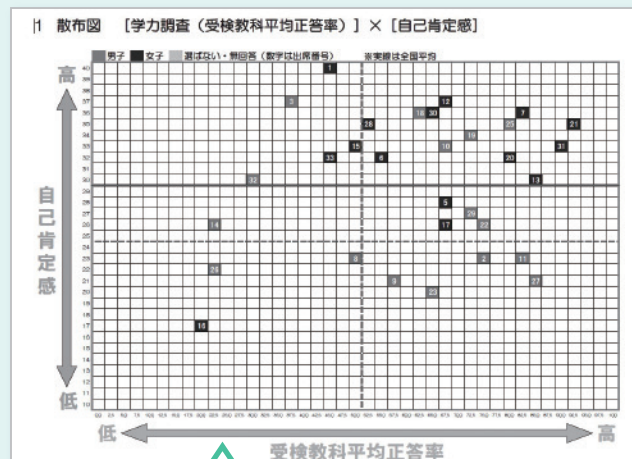
学力調査とのクロス資料

i-check を標準学力調査と併用していただくと、教科学力と i-check のクロス集計が可能となります。

結果資料



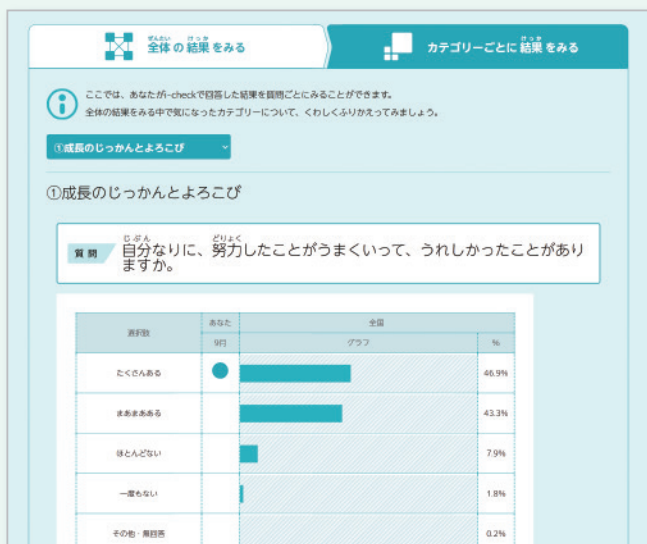
学力層別の回答構成比を確認することができます。



散布図の横軸に学力をとり、「自己肯定感」「生活習慣」「学習習慣・意欲」の3カテゴリーとクロスした散布図を確認することができます。

マイアセス

マイカルテ



児童生徒は、自分の端末から、自分の結果の概要や小問ごとの回答結果を閲覧できます。

学校カルテ



その他 質問紙調査

見やすく読み間違えにくい、ユニバーサルデザインフォントを取り入れています。

※「生活行動・学習活動調査」「生活・学習意識調査」は、段階評価方式ではご利用できません。また、標準学力調査との併用が前提であり、質問紙調査単体でのお申し込みは受け付けておりません。

生活行動・学習活動調査

「基本的な学力」を支えるのは「基本的な学習習慣」であり、「基本的な学習習慣」を支えるのは「基本的な生活習慣」です。

学力を支える基本的な学習習慣や生活習慣が身についているかを自己確認することで、“自らの目標を掲げて主体的に努力する”児童生徒の育成を目指しています。

個人票

学校用資料



標準学力調査と併用していただくと、学力調査の結果に基づいた《学力層別分析》の資料をご提供いたします。

児童生徒一人ひとりが、日々の生活や学習活動の中で、個々の課題に応じて具体的な目標を掲げて取り組めるよう、学力と学習活動の様子を把握することができます。

各層の傾向と課題を把握できるだけでなく、児童生徒や保護者に対しても、きめの細い、より具体的な助言ができます。

調査時間：約30分

質問数：生活行動51問

学習活動（各教科）16～18問

令和8年度価格：1人あたり352円

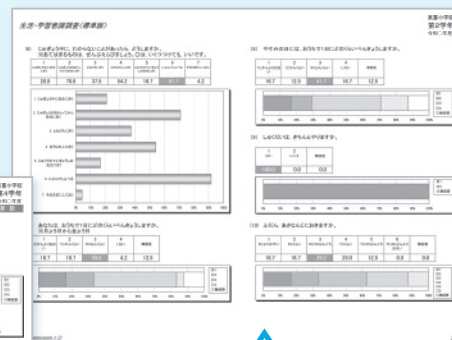
（本体320円）

生活・学習意識調査【標準版】

地域や学校の傾向を、グラフ化してご提供します。「意識調査はしたいが1単位時間はかけられない」という場合などに有効です。（※個人票はありません）

学校用資料

標準学力調査と併用していただくと、学力調査の結果に基づいた《学力層別分析》の資料をご提供いたします。



調査時間：約15分

質問数：24～52問

令和8年度価格：

1人あたり195円
（本体177円）

個人データを集計し、学校やクラスの生活状況や学習状況の傾向を把握できる資料です。

評価と学びのサポートシステム マイアセス

～「標準学力調査」「総合質問紙調査 i-check」でのご活用～

マイアセス とは・・・

マイアセスは、評価と学びのサポートシステムです。
東京書籍の評価関連商品『標準学力調査』『総合質問紙調査 i-check』を実施いただくと、紙の結果資料に加えて、
マイアセス上で結果を閲覧することができます。
また、児童生徒はマイアセス上で「ふくしゅうサポート」などのサービスをご利用できます。



total ID でつながる、 データ利活用の促進

マイアセスでは、「total ID」という
東京書籍の共通アカウントシステムを導入しています。
1つのIDで、東京書籍の様々なコンテンツやサービスのデータが
紐づくようになります。
データ利活用により、今まで以上に子どもたちの状況に合った学びを
実現することができます。

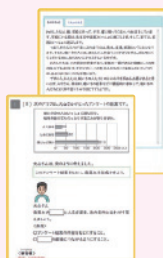
※ GoogleアカウントやMicrosoftアカウントなどを利用した「シングルサインオン」に対応

東京書籍の CBTのご案内

東京書籍は GIGA 端末で実施できる
CBT 商品をご提供しております。

標準学力調査 CBT

紙の標準学力調査を発展させ、動画を活用した
問題、CBT ならではの問題に対応した本格的な
学力調査。速報結果表示にも対応しています。



i-check CBT

CBT で実施する、総合質問紙調査。児童生徒の
状況をすぐに確認することができます。



調査結果をマイアセス上の Web
Web カルテでは、教育委員会用
それぞれ専用の Web カルテを提

学校力



紙の調査の Web カルテ
ただし、「子どもカルテ」
ないとご利用できません。

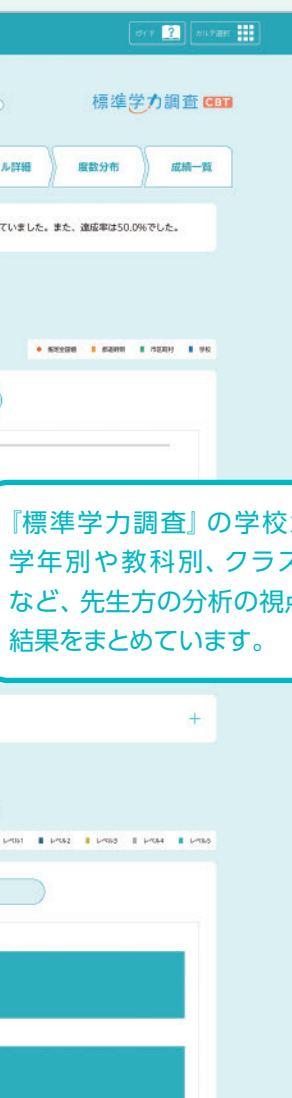
ついて～

マイアセス結果資料

カルテで閲覧することができます。

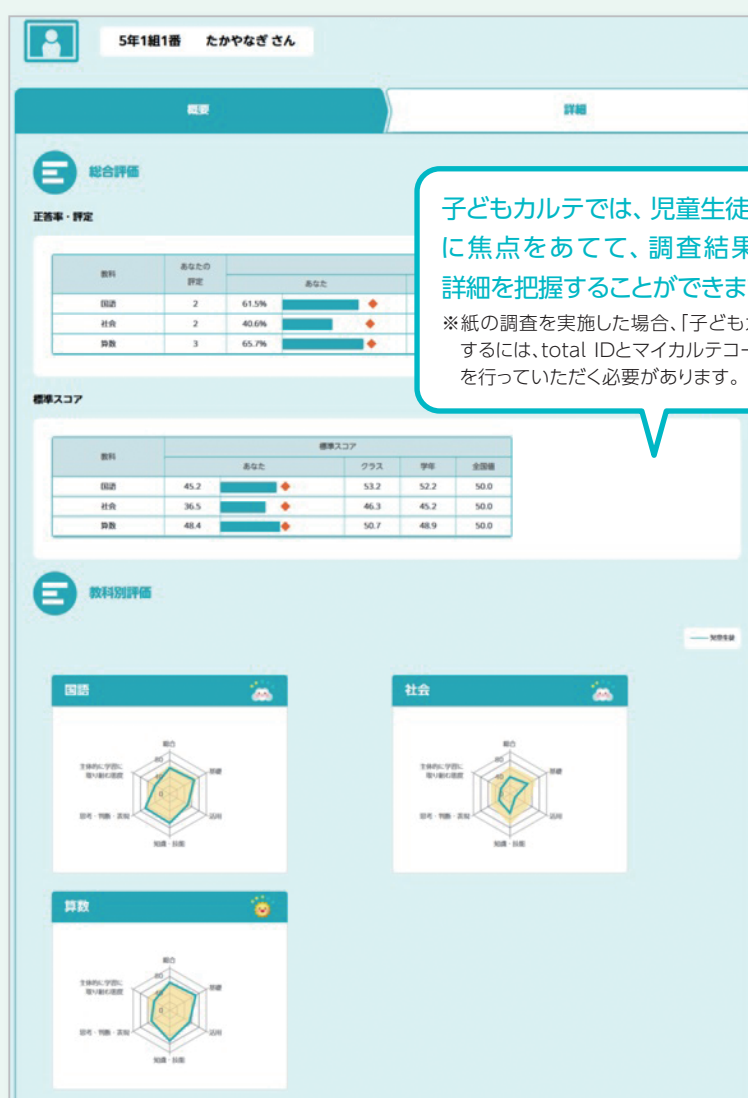
の「教育委員会カルテ」、学校用の「学校カルテ」「子どもカルテ」、児童生徒用の「マイカルテ」と、
供します。

ルテ



『標準学力調査』の学校カルテでは、
学年別や教科別、クラス全体、個人
など、先生方の分析の視点に合わせて
結果をまとめています。

子どもカルテ



子どもカルテでは、児童生徒一人ひとりに
焦点をあてて、調査結果の概要や
詳細を把握することができます。

※紙の調査を実施した場合、「子どもカルテ」を閲覧
するには、total IDとマイカルテコードのひも付け
を行っていただく必要があります。

は、total IDに新たに登録いただかなくても閲覧することができます。

「マイカルテ」「ふくしゅうサポート」については、total IDとマイカルテコードのひも付けを行わ

「新しいまなび!」のプラットフォーム マイアセス

マイカルテ



問題の正誤情報まで見ることができるため、児童生徒は今まで以上に自分の得意・苦手を確認しやすくなります。

問題ごとの結果と問題の詳細

問題番号				問題の内容	目標値	あなたの結果
通し番号	大問	中間	小問			
1	1	(1)		整数のなかま分け	75.0	×
2		(2)		整数のなかま分け	85.0	×
3		(3)		整数のなかま分け	65.0	○
4	2	(1)		分数と小数	75.0	○
5		(2)		分数と小数	70.0	○
6	3			分数と小数	75.0	○
7	4			分数と小数	35.0	○

児童生徒一人ひとりが、自分の端末から結果を閲覧できます。

※紙の調査を実施した場合、「マイカルテ」を閲覧するには、total IDアカウント登録を行った上で、コード連携を行っていただく必要があります。

復習サポート

『標準学力調査』を実施した場合、その復習として、マイアセス上で「ふくしゅうサポート」を提供します。今まで以上に、児童生徒一人ひとりの得意や苦手に寄りそった学習をサポートします。

※「ふくしゅうサポート」を利用するには、total IDアカウント登録を行った上で、コード連携を行っていただく必要があります。

デジタルフォローアップドリル

あなたの結果と、とくくんではいドリルです。

学習項目	正確にわかった	まだわからない	ドリルをやるべき	ドリルをやるべき
1.1 1年間の植物の成長	ヘチマの成長の順序を理解している。	○	ドリル1	2月22日 10時中 2回正解
1.2 1年間の植物の成長	冬のヘチマとサクラのようすを理解している。	○	ドリル1	2月18日 10時中 2回正解
2.1 1年間の動物のようす	オオカミの1年間のようすを理解している。	○	ドリル1	2月15日 10時中 2回正解
2.2 1年間の動物のようす	寒い時期に、動物はあまり活動しないことを理解している。	○		
3.1 天気の様子と気温	気温の測り方として適切なものを指摘できる。	×		
3.2 天気の様子と気温	気象観測計の記録から、天気の変化を把握できる。	×		

調査で明らかになった自分の得意や苦手に合わせて、デジタルドリルで復習することができます。
※無料で利用できます。

タブドリLive!

「タブドリLive!」と連携し、自分の結果に合わせて復習することができます。

※別途「タブドリLive!」の注文が必要です。



調査問題のラインナップと概要

■教科・学年ラインナップ

	学力調査										質問紙調査		
	1学期実施版					3学期実施版							
	部分改訂版・全面改訂版					部分改訂版・全面改訂版							
	国語	社会	算・数	理科	英語	国語	社会	算・数	理科	英語	i-check	生活行動・ 学習活動 調査	生活・学習 意識調査
小1						◎◆		◎◆			◎		
小2	◎◆		◎◆			◎		◎			◎		◎
小3	◎		◎			◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
小4	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
小5	◎	◎	◎	◎	★	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎★	◎	◎	◎
中2	◎	◎	◎	◎	◎★	◎	◎	◎	◎	◎★	◎	◎	◎
中3	◎	◎	◎	◎	◎★	◎※	◎※	◎※	◎※	◎※	◎	◎	◎
令和 8年度 価格	各学年1教科:420円(本体382円)										440円 (本体 400円)	352円 (本体 320円)	195円 (本体 177円)

◎解答時間は、小学校40分、中学校45分です。
◆小学校1年生の3学期実施版と小学校2年生の1学期実施版は、解答用紙が問題と一体型となっています。
※3学期実施版の全面改訂版では、中学校3年生の発行はありません。
★小学校外国語活動の調査については本冊子20ページを、中学校英語スピーキング調査については本冊子21ページをご覧ください。

■出題範囲 (部分改訂版・全面改訂版共通)

- 1学期実施版** 前学年の学習内容(中学校1年生は小学校内容となります)
- 3学期実施版** 当該学年11月までの学習内容

■評価方式

- 結果資料は、「目標準拠評価方式」と「段階評価方式」の2種類があり、ご注文の際にどちらかを選択することができます。
- 「生活行動・学習活動調査」「生活・学習意識調査」は、段階評価方式ではご利用できません。また、標準学力調査との併用が前提であり、質問紙調査単体でのお申込みは受け付けておりません。

■調査結果の納品方法について ➡11ページも併せてご参照ください

学力調査の結果資料の納品方法は、下記の3パターンからお選びいただけます。

- ①紙帳票のみ
- ②データ(CD)のみ
※紙帳票には含まれていないSP表など追加の帳票データも入っています。
- ③紙帳票+データ(CD)
※追加料金(1校あたり1,100円(本体1,000円))がかかります。

※①②③いずれを選んだ場合も、
個人票は紙ベースで返却されます。

オプション 以下を選択することにより、追加料金を伴うものがあります。

学力調査

- **個人経年比較資料**…1人あたり 53円(本体48円)となります。
※「標準スコア」、「自己内評価」、「ステップ(段階評価)」の3種類があり、1つを選択することができます。
※通常の結果資料作成に加えて5営業日いただきます。
- **分析レポート(考察資料)作成機能**は、1学年1教科5,500円(本体5,000円)となります。

i-check

- **道徳関連資料**…無料です。お申込みの際にご注文ください。

その他のWebサービス

- **やってみよう!フォローアップシート**…個人票の二次元コードから、ダウンロードすることができます。
※フォローアップシートの使用料はかかりませんが、通信費は自己負担となります。

マイアセスでのサービス提供

- **Webカルテ**…紙で実施した調査の結果を、マイアセス上のWebカルテで閲覧することができます。
※児童生徒用の「マイカルテ」と、先生用の児童生徒個人票である「子どもカルテ」を閲覧する場合は、total IDに登録の上、コード連携を行う必要があります。
- **復習サポート**…児童生徒の端末から、マイアセス上のデジタルドリル「デジタルフォローアップドリル」で、調査結果の復習に取り組むことができます。
『タブドリLive!』をお申込みの場合は、『タブドリLive!』のドリルで復習することもできます。
※『タブドリLive!』は有償です。
※マイアセスの利用を希望の場合は、お申込みの際に「マイアセスあり」をご注文ください。
※「total ID」は、東京書籍の共通アカウントシステムです。

調査問題の利用にあたって

- 全面改訂版は、問題用紙を回収しません。調査の公平性を保つため、1学期実施版の問題用紙は6月末、3学期実施版の問題用紙は3月10日まで児童・生徒に返却せず、校内での使用・保管をお願いいたします。
- 小学校1年生の3学期実施版および2年生の1学期実施版は、採点済みの問題用紙は返却いたしません。

お願い

実施の直前に過去の問題及び事後復習教材で事前練習を行うと、児童生徒の学力を正しく測定することが困難となります。児童生徒の学力を正しく測るため、「事前練習」はお控えください。
また弊社学力調査の問題をコピーして児童生徒に実施させるなど、調査問題を2次利用することは著作権の侵害にあたります。

お申込みから結果資料お届けまでの流れ

① ご注文

- 調査実施日の2週間前までに、お申し込みください。

② 問題用紙・実施の手引きなどの送付

- 調査問題・部材の納品には、ご注文をいただいてから通常5～8営業日ほどお時間をいただきます。
- 自治体単位でのご注文は、納品まで2週間ほどお時間をいただきますので、早めのご注文をお願いします。

③ 調査の実施

- 部材納品時に同梱した「実施の手引き」をご確認のうえ、各種調査を実施してください。

④ 解答用紙の返送

- 「実施の手引き」をご確認のうえ、返送してください。

⑤ 結果資料の送付

- 1学期実施版が6月初旬以降順次、3学期実施版が1月中旬以降順次となります。
- 段階評価方式の結果資料の発送時期は、目標標準評価方式と異なります。
下記の全国の支社・出張所または、DX営業部へお問い合わせください。
- 各種個人別帳票には、児童生徒が書いた名前が掲載されます。
プライバシーに配慮し、個人名を記載しない方法も可能です。
- 学校のご都合で、個人用または学校用データを再発行する場合は、別途有料となります。

※詳細につきましては、ご注文の際、担当者にご相談ください。



東京書籍

支社・出張所

札幌 011-562-5721
金沢 076-222-7581
広島 082-568-2577
沖縄 098-834-8084

仙台 022-297-2666
名古屋 052-950-2260
福岡 092-771-1536

東京 03-5390-7467
大阪 06-6397-1350
鹿児島 099-213-1770



営業総轄本部(DX営業部) 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 TEL:03-5390-7577

商品についてのお問い合わせは、
全国の支社・出張所または、
営業総轄本部DX営業部までお願いします。

東京書籍サポートダイヤル

0120-29-3363

受付時間

月～金 9:30～17:30(※土・日・祝日を除く)
※年末年始および当社の定めた休日も休業いたします

お問い合わせURL

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/customer/>



エデュフロント

●出荷・納品についてのお問い合わせ

(株)学習調査エデュフロント 「標準学力調査」係

Tel.03-5390-7572



●代理店

企画・制作・発行 東京書籍株式会社 コンピュータ処理・運用 (株)学習調査エデュフロント

※解答(回答)用紙に記入された個人情報、利用目的以外には使用しません。利用目的詳細は、ホームページに掲載のデータ活用ガイドラインをご参照ください。
本カタログは、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

A6694-4 2025.07